

第1章 本市を取り巻く現状と課題

1-1 社会経済状況

1-2 概況と特徴

1-3 都市づくりの進行状況

1-4 市民ニーズ

1-5 都市づくりの課題

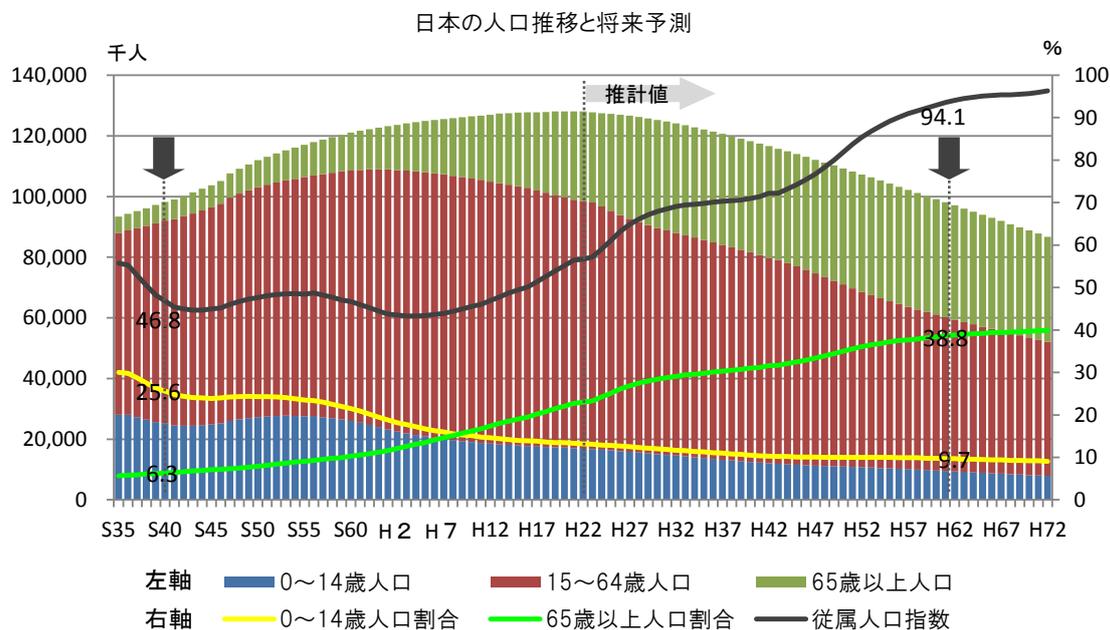
1-1 社会経済状況

我が国を取り巻く状況には、人口減少、超高齢社会、国際競争の激化など以下の潮流が見られ、本市にも影響を与えています。

①人口減少・超高齢社会への移行

日本の総人口は、増加から長期的な減少過程に入り、平成20年（2008）をピークに40年後の平成62年（2050）には、ほぼ100年前（昭和40年（1965））の人口規模に戻っていくことが予想されています。しかし、従属人口指数^{※1}を用いてその推移を見ると、昭和40年（1965）の働く人2人で子どもまたは高齢者を1人支えていた社会とは異なり、平成62年（2050）には働く人1人で子どもまたは高齢者1人を支える社会になると予想されています。

高度経済成長期には、人口増加と経済成長を前提としたインフラ整備が計画されていましたが、人口減少社会の到来を受けて、既存の社会資本のストックを最大限活用するなど総合的なまちづくりの推進が必要です。



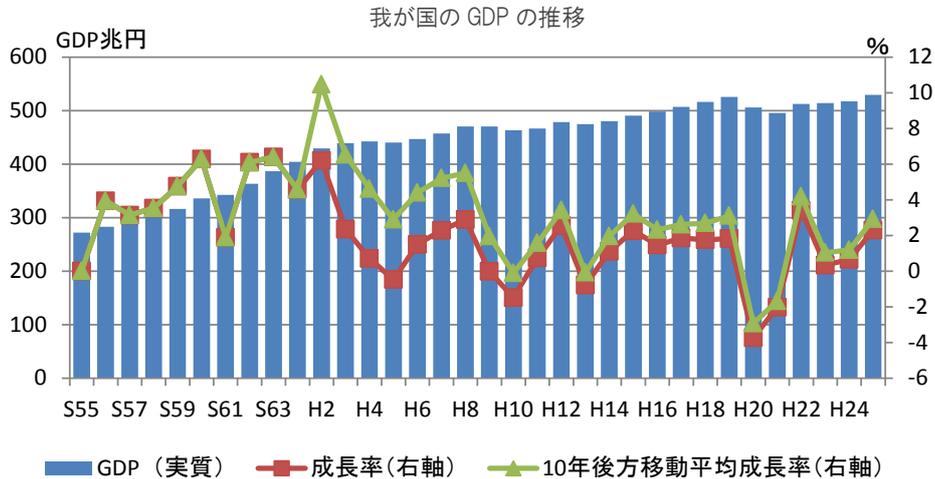
出典：以下のデータより作成。従属人口指数は年齢別人口から算出。
実績値（S35～H22）は総務省「国勢調査」、「人口推計」。
推計値（H23～H72）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（H24.1月推計）」中位推計。

※1：従属人口指数 = $\frac{\text{年少人口（14歳以下）} + \text{老年人口（65歳以上）}}{\text{生産年齢人口（15歳以上64歳未満）}} \times 100$

②経済の低迷と国際競争の激化

日本の GDP の近年の成長率は、昭和 50 年代と比べて低下傾向が見られ、他国と比較しても上位にあるとは言えない状況です。

このため女性や高齢者の労働環境の改善及び就業促進による労働力の確保に加え、生産効率性の改善や技術革新などによって労働生産性を高めていくことが求められています。



注) 1 実質 (連鎖方式) による値。

2 2000 年基準における 2001 年の数値と 2005 年基準における 2001 年の数値の比率により、1980 年～2000 年までの数値を調整している。

出典：内閣府「国民経済計算」より国土交通省作成。

③環境保全への意識の高まり

東日本大震災後、環境保全に対する意識が変化しており、リサイクルや節電、再生可能エネルギー、省エネルギーといった環境保全への意識が高まっています。

循環型社会を実現するため、技術力を活かした環境保全への貢献をさらに進めていくことが必要です。

④国土のもろさ・弱さと高まる災害リスク

年平均気温の上昇や集中豪雨発生件数が増加する中で、都市特有の被害が発生したり、被害規模が拡大するなど、自然災害に対するもろさ・弱さが問題になっています。

国土のもろさ・弱さにどのように対応していくか、今後の社会インフラの維持管理・更新などへの検討が必要で。

⑤地域でのコミュニティづくりに対する意識の高揚

成熟化社会^{※1}を迎え、団塊世代が退職後、地域に戻り、自らの経験を活かして地域内の課題に対応するような取り組みが見られます。

地域でのコミュニティに対する意識が高まる中で、既存の公共施設などを活用した、ひとが支え合う地域でのまちづくり活動が重要となっています。

※1：成熟化社会：量的拡大のみを追い求める経済成長や大量消費社会の代わりに、高水準の物質文明と共存しながら、精神的な豊かさや生活の質の向上を最優先させるような、平和で自由な社会を指します。

1-2 概況と特徴

(1) 位置・地勢

本市は、京都西山の東、桂川・宇治川・木津川が合流して淀川となる地点の北にあり、京都盆地の南西に位置します。北は向日市・京都市、東は京都市、南は大山崎町、西は西山を境に大阪府と接しています。東西約 6.5km、南北に約 4.3km の長方形をなしており、総面積 19.17km² ※1 に約 8 万人の市民が暮らしています。

全般に北西方向が高地、南東方向が低地となり、総面積の約 4 割を占める西部の西山と、中央部の段丘地、桂川・小畑川によって形成された沖積平野で構成されます。

中央部は商業地、西部・北部・南部は住宅や農業に広く利用されています。東部には工場や先端産業が集積しています。

交通は、JR 東海道本線長岡京駅と阪急電鉄京都線長岡天神駅、西山天王山駅があり、東側には名神高速道路・国道 171 号が縦走しています。南西部を通る京都縦貫自動車道の長岡京 IC には高速長岡京バスストップが設置され、交通の便に恵まれています。



※1：総面積出典：平成 26 年 全国都道府県市区町村別面積調（国土交通省国土地理院）

(2) 都市のなりたち

5世紀前半に桂川右岸を支配した首長の墓と考えられる恵解山古墳など、多くの古墳が造られました。延暦3年(784)、桓武天皇が水陸の便の良いこの地に都を移し、「長岡京」が営まれます。10年後、都が平安京に移されても、当地には山陽道(西国街道)が縦断しており、多くのひとが往来していました。

中世になると、西岡(にしのおか)とも呼ばれるこの地域は、京に入る西の玄関口としてしばしば戦乱に巻き込まれました。元亀2年(1571)、細川藤孝が勝龍寺城の大改修を行い西岡支配の拠点とすることでひとまず安定しますが、天正10年(1582)の山崎合戦では明智光秀が陣をおき、再び戦乱に巻き込まれました。

江戸時代の中ごろから終わりにかけて、長岡天満宮や光明寺・乙訓寺・楊谷寺など市内の社寺が、京都近郊の名所として当時の観光案内書に紹介され、広く知られるようになりました。明治22年(1889)には、江戸時代の15カ村が新神足村、海印寺村、乙訓村の3カ村に合併され、近代的な行政組織が整いました。

昭和24年(1949)には3カ村が合併して長岡町となり、昭和30年代後半から宅地開発や工場の進出が相次ぎ、急速に都市化が進みました。昭和47年(1972)10月に市制が施行され、平成24年に市制40周年を迎え、現在に至っています。



恵解山古墳公園



勝竜寺城公園



長岡天満宮(八条ヶ池)



光明寺



乙訓寺



楊谷寺

(3) 人口の動向

昭和47年10月1日に市制が施行された当初の人口は56,867人であり、その後減少する時期もありましたが、現在は微増傾向にあります。同じく世帯数も増加傾向にあります。世帯人員は減少しており、近年は約2.5人となっています。

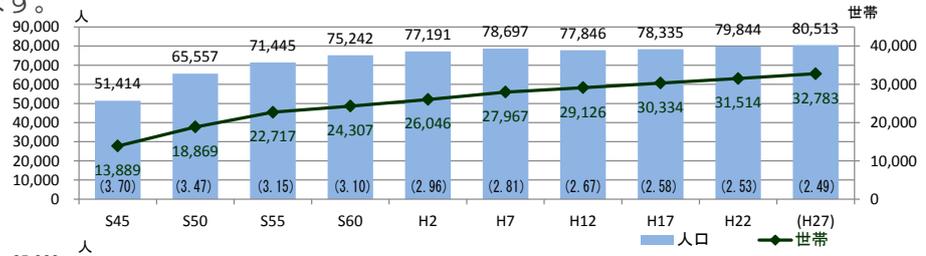
人口の自然動態※1は、昭和50年以降緩やかに減少を続けています。社会動態※2は平成2年以降減少傾向が続きましたが、平成22年から増加に転じました。高齢化率※3は継続して増加し、平成22年に21%を超え超高齢社会に突入、平成27年には25%を超えました。生産年齢人口比率は減少していますが、年少人口比率※4は平成17年以降、14%程度を維持しています。

世帯類型は、核家族と単身世帯に増加傾向が見られます。単身世帯率は平成22年で26.3%となっており、特に高齢者の単身世帯の増加が確認できます。

通勤・通学による流出数は、流入数を大きく上回り、平成22年の昼間人口指数※5は92.0%となっています。

人口と世帯の推移

出典
国勢調査
H27年のみ京都府推計人口
()は世帯人員数



人口動態の推移

出典
住民基本台帳及び
外国人登録
(各年5年分の総数)



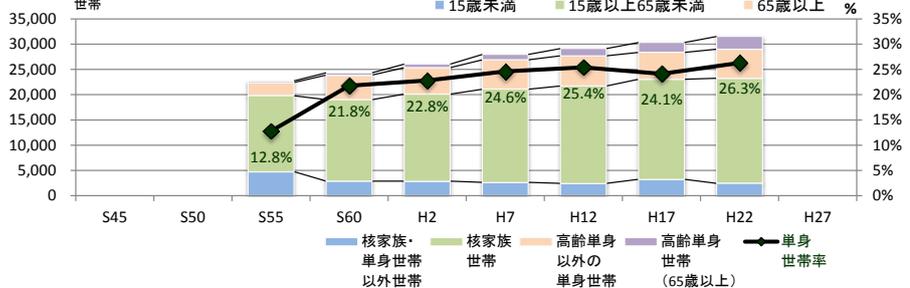
年齢別人口構成の推移

出典
国勢調査
H27年のみ住民基本台帳
及び外国人登録



世帯類型の推移

出典
国勢調査
(S55年は、調査対象
が普通世帯のみ。
S45,S50,H27年は
データなし。)

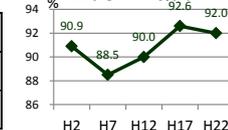


長岡京市の流出・流入人口 昼間人口比

出典
国勢調査

		流出・流入人口(平成22年)		
		1位	2位	3位
流出先・数		京都市 :11,048人	大阪市 :3,830人	向日市 :1,277人
流入元・数		京都市 :6,658人	向日市 :1,980人	高槻市 :1,548人

昼間人口指数



※1：自然動態：一定期間における出生・死亡に伴う人口の動き 自然増減数＝出生数－死亡数
 ※2：社会動態：一定期間における転入・転出に伴う人口の動き 社会増減数＝転入数－転出数
 ※3：高齢化率：65歳以上人口の総人口に占める割合
 ※4：年少人口比率：0歳～14歳人口の総人口に占める割合
 ※5：昼間人口指数：昼間と夜間の人口比率（夜間人口100人あたりの昼間人口の割合）

(4) 産業の状況

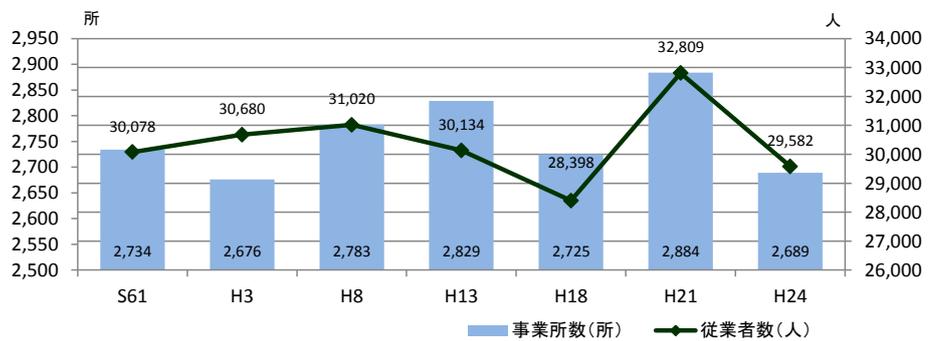
本市では国道171号沿道を中心に工業関連の事業所施設が立地しています。事業所数及び従業者数は、平成21年にいったん増加しその後減少しています。製造業従業者数は、減少しているものの製造品出荷額は平成12年以降、微増しています。

商業は、阪急長岡天神駅やJR長岡京駅を中心に商店街やスーパーなど小売店の集積があります。最近では、商品販売額（卸売・小売業）、従業員数ともに若干減少傾向が見られます。

農業は、営農者の高齢化や減反政策により宅地への転用が進んでおり、耕地面積の減少が続いています。

事業所数と従業者数推移

出典
H21と24年は
経済センサス、
それ以外は事業所
・企業統計調査
(民営のみ)



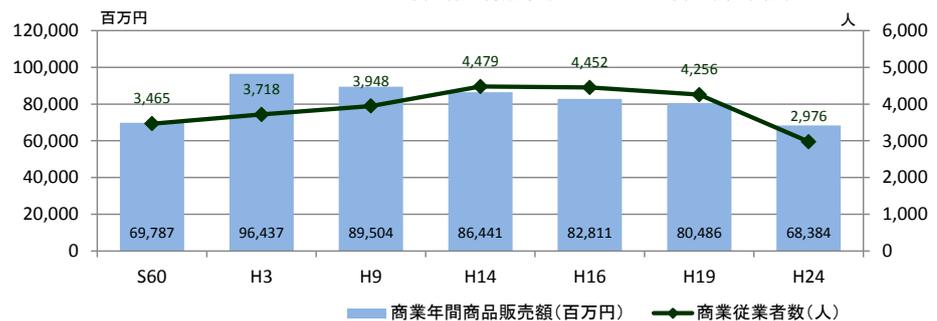
製造業従業者数と製造品出荷額推移

出典
工業統計調査、
経済センサス-
活動調査



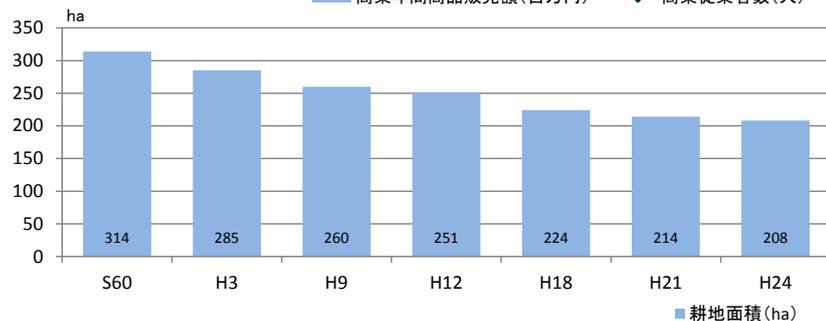
商業年間商品販売額と商業従業者数推移

出典
商業統計調査、
経済センサス-
活動調査
(商業年間商品
販売額は前年度分)



耕作面積の推移

出典
生産農業所得統計
／耕地及び作付面
積統計



(5) 特徴

先の(1)～(4)の本市の概況からまとめて、本市のまちづくりに活かすべき特徴を以下に整理します。

市域西側には総面積の約4割を占める西山や、中心部には八条ヶ池周辺に見られるまとまったみどりを有し、周辺の市街地には穴抜き状の市街化調整区域^{※1}がある田園地帯、小畑川や小泉川などの河川を有する自然資源に恵まれています。また、恵解山古墳、勝龍寺城跡、長岡天満宮、光明寺、乙訓寺、楊谷寺などの歴史文化資源を有しています。

加えて、本市は、京都市と大阪市の間に位置しており、JR東海道本線と阪急電鉄京都線に3つの駅を有しています。その内の一つは京都縦貫自動車道の長岡京IC付近と隣接、京阪電車京阪本線淀駅にも近く路線バスでつながっており、広域交通条件にも恵まれた都市です。その優れた立地性により、通勤、通学などに利便性の高いベッドタウンとして成長するとともに、工業も集積してきました。

このように有形・無形、顕在・潜在する重要な自然・歴史文化資源を有しながら交通条件にも恵まれていることが、本市の特徴と言えます。

将来のまちづくりには、これらの特徴を積極的に活かすことが望まれています。

恵まれた自然資源

- ・豊かなみどり資源(西山の豊かなみどり、山麓に広がる竹林、八条ヶ池周辺の森、神社仏閣の四季折々の花など)
- ・市街地周辺に広がる田園風景
- ・多様な水辺資源(小畑川・小泉川・犬川などの河川・水路、溜池など)
- ・地下水資源
- ・特産品(タケノコ、花菜、茄子など)

特色ある歴史文化資源

- ・「長岡京」の都の地(市街地のほぼ全域が長岡京跡)
- ・多彩な歴史資源(恵解山古墳、勝龍寺城跡、長岡天満宮、光明寺、乙訓寺、楊谷寺など)
- ・西国街道の歴史的建築物(旧石田家住宅など)
- ・長岡京ガラシャ祭

広域交通条件・立地の良さ

- ・京都市と大阪市の間に位置する
- ・恵まれた広域交通条件(阪急長岡天神駅・阪急西山天王山駅、JR長岡京駅、京都縦貫自動車道の長岡京ICと阪急西山天王山駅が隣接、京阪淀駅も近い)
- ・通勤・通学などに利便性が高い

※1：市街化調整区域：市街化を抑制し、優れた自然環境などを守る区域として、開発や建築が制限されている区域です。

1-3 都市づくりの進行状況

本市では、これまで平成13年に策定した都市計画マスタープランの都市づくりの将来目標に基づき、都市整備を進めてきました（詳細は参考資料3参照）。これらにより都市基盤は一定整備されてきたものの、未整備の部分もあり、今後も継続した取り組みが必要です。

交通軸



交通メイン軸



環状道路／幹線道路軸



交通結節点／高速道路軸

都市拠点



都心拠点



広域交通拠点



歴史・文化・レクリエーション拠点

みどりと歴史の回廊



シンボル軸



うるおい水辺軸



歴史ふれあい軸



みどり資源

1-4 市民ニーズ

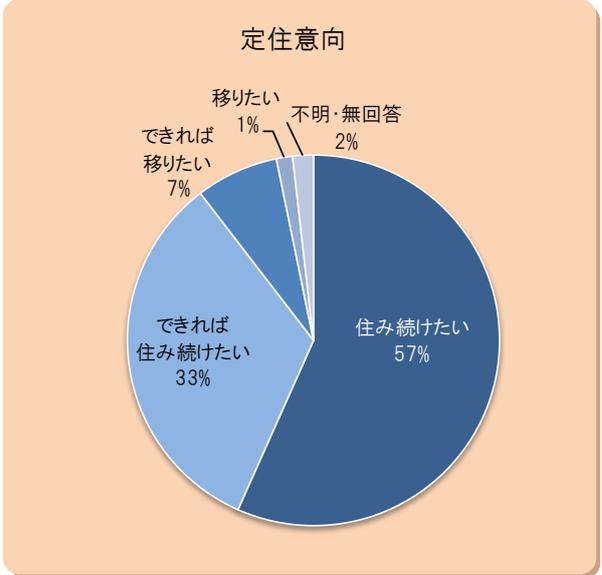
まちづくりのための『市民アンケート調査』により見られた、市民ニーズは以下のとおりです。

出典：長岡京市まちづくりのための『市民アンケート調査』（平成 26 年）
 長岡京市在住の 18 歳以上の市民対象、無作為抽出 3,000 人
 回収数：1,442 件、有効回答率：48.1%

①定住意向

「住み続けたい」が57%と最も多く、次いで「できれば住み続けたい」が33%となっており、住み続ける意向の市民が90%と非常に高い結果となっています。

一方、「できれば移りたい」が7%、「移りたい」が1%で、移転意向の市民が8%となっています。



②長岡京市で自慢できるもの

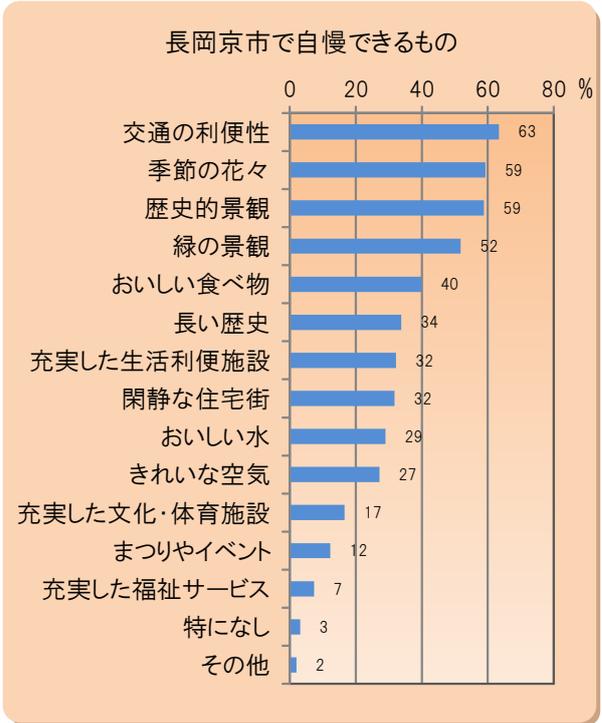
「交通の利便性」が63%と最も多く、次いで「季節の花々」「歴史的景観」が59%、「緑の景観」が52%と花や景観に関するものが上位を占めています。

次いで「おいしい食べ物」が40%です。

これらから、長岡京市は「交通利便性が高く、季節の花々や歴史的景観・緑の景観が自慢で、さらにおいしい食べ物もあるまち」であると言えます。

また、都市施設に関する「充実した生活利便施設」を自慢とする市民は32%ですが、「充実した文化・体育施設」を自慢とする市民は17%にとどまっています。

住宅都市として発展してきた本市の「閑静な住宅街」を自慢とする市民は、32%となっています。



③政策の満足度・重要度

政策の「満足」「やや満足」を合わせた満足度は、「緑豊かな環境づくり」が最も高く39%となっています。次いで「環境保全型社会の形成」が32%、「安定した水の供給」が31%となっています。

一方で「不満」「やや不満」を合わせた不満度は、「総合的な交通体系の整備」が33%、「市街地の計画的整備」が23%の順となっています。

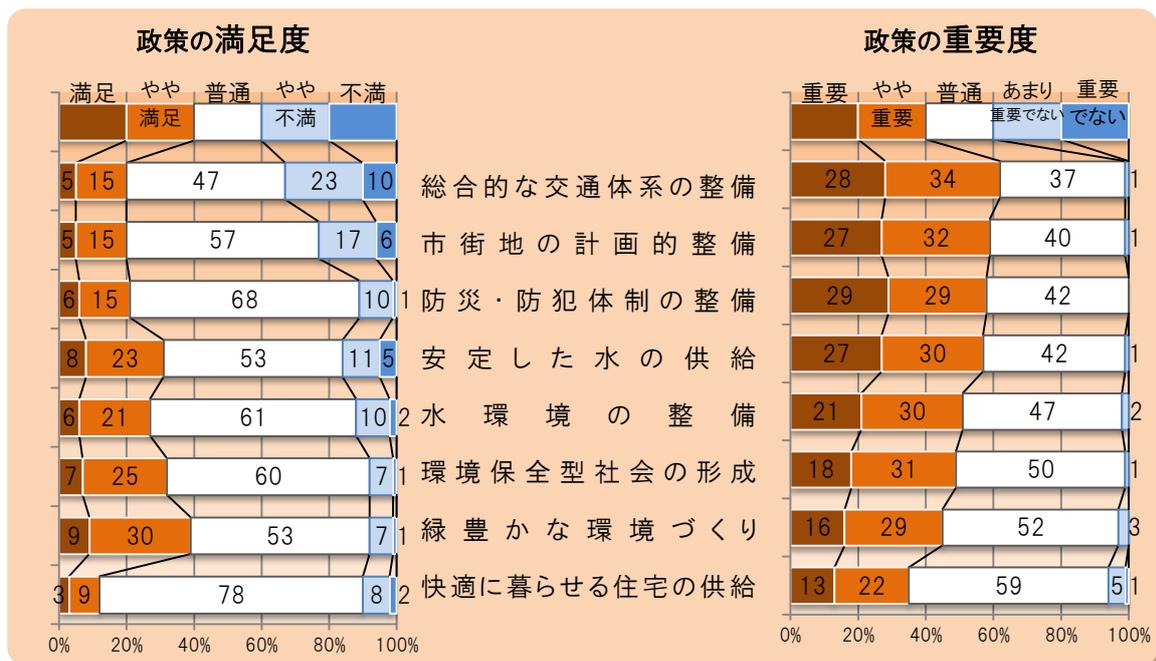
同様に、これらの政策の重要度は、「総合的な交通体系の整備」が62%、「市街地の計画的整備」が59%、「防災・防犯体制の整備」が58%、「安定した水の供給」が57%となっています。

先の本市で自慢できることとして1位に挙げられる「交通の利便性」とは対照的に、「総合的な交通体系の整備」については不満も多く、重要度が高いことが分かります。このことから、都市間交通は発達している一方で、市内において、拠点間を結ぶ交通基盤など未整備区間の整備や公共交通のネットワークづくりの充実に対して重要性を示していると考えられます。

同じく、「市街地の計画的整備」についても、不満度が高く、重要度が高いことから、JR長岡京駅西口再開発事業など完了した事業があるものの、進展のない阪急長岡天神駅周辺の整備の重要性を示しているとも考えられます。

「防災・防犯体制の整備」については、不満度は11%と比較的低いものの、重要度は58%であることから、現状での不満の解消というよりも、今後の防災や安全面に対する備えの強化が求められていると言えます。

「安定した水の供給」は、満足度が比較的高いものの重要度も高いことから、不満に繋がる要素を解消するとともに、引き続き水を安定供給することが必要な政策と言えます。



1-5 都市づくりの課題

本市の将来人口推計では、現状のまま推移すると平成27年以降、減少傾向に入ると予測されます※1。少子高齢化の進展に加え、安全・安心への対応や中心部の活性化など、引き続き対応が求められています。

今後は、これまでに整備した広域交通基盤などを有効に活用し、本市の特性を活かして都市の活力を高めていくことが期待されます。このような状況にある本市のまちづくりにおける課題を、以下に整理します。（詳細は参考資料4参照）

安全・安心に関する課題

総合的な交通体系や自然災害への備えなどに関する市民ニーズが高まっており、安全・安心確保に向けた以下の課題への対応が必要です。

- ❖ 市街地における集中豪雨に対する水害対策
- ❖ 西山山麓における住宅地付近での土砂災害防止対策
- ❖ 災害時の緊急輸送などに対応できる道路整備
- ❖ 中心部における、幅員の狭い道路が多い地区の防災対策
- ❖ 公共交通の利便性向上や、誰もが安全に通行できる歩行空間の確保

自然環境や住環境に関する課題

市街地に残る緑地は減少傾向にあり、自然環境の保全やうるおいある住環境づくりに向けた以下の課題への対応が必要です。

- ❖ 市街地にうるおいを与える緑地の確保
- ❖ 農地の転用などが見られる山麓住宅ゾーンでの自然環境の保全
- ❖ 市街化調整区域における周辺農地に配慮した土地利用
- ❖ 市民一人当たりの都市公園面積が小さいことへの対応
- ❖ 環境負荷の軽減
- ❖ 工業ゾーンにおける住宅開発に伴う住工共存

都市の活性化に関する課題

少子高齢化の進展による人口減少過程への転換による都市の活力低下が危ぶまれており、活性化における以下の課題への対応が必要です。

- ❖ 市全体の人口減少への対応、地区毎の年齢構成の変化への対応
- ❖ 公共公益施設の老朽化と耐震化への対応
- ❖ 阪急長岡天神駅周辺の交通施設整備と併せた中心部の活性化
- ❖ 阪急西山天王山駅・長岡京 IC を活かした活性化

資源の活用に関する課題

市民が誇りに思え、住み続けたいと思える都市に向け、本市の特性や資源を活かした魅力づくりにおける以下の課題への対応が必要です。

- ❖ 歴史資源を活かした魅力づくり
- ❖ 価値ある景観の保全と魅力的な景観形成
- ❖ 市民ニーズを踏まえ、利便性と快適性を考慮した環境形成
- ❖ 家屋の老朽化、空き家など、住宅地区の状況に応じた対策による魅力の再生

※1：本プラン将来人口推計（25頁のグラフ参照）より予測しています。